



芝・品川の海を語ろう 江戸前ESDしながわ塾

ミニ瓦版 第5号



東京海洋大学 江戸前ESD協議会 〒108-8477 東京都港区港南4-5-7 東京海洋大学海洋科学部

第5回江戸前ESDしながわ塾 芝・品川の海をふりかえる

楠瀬 慎 (海洋政策文化学科3年)

去る8月21日(土)、真夏の太陽が地面を熱く照らす中、「第5回 江戸前ESDしながわ塾 芝・品川の海をふりかえる」が東京海洋大学楽水会館1階大会議室で開催されました。

今回は、きびしい残暑にもかかわらず、21名の方がご参加くださいました。一方、お迎えするスタッフは、しながわ塾実行委員会の小堀信幸さん(船の科学館)、今井健三さん((財)日本水路協会)、師田彰子さん(全国内水面漁業協同組合連合会)、藤塚悦司さん(大田区郷土博物館)の4名に、日刊水産経済新聞の梅川瑞穂さんが助っ人としてご参加くださり、海洋大教職員および学生14名を加えた計19名の大所帯での開催となりました。

今回は、第1回しながわ塾でご参加のみなさまにお願いした、「リサーチ」の成果を9月の最終回で発表いただくためのワークショップです。

表1に当日のプログラムを示します。始めに、しながわ塾第1回から第4回までに見てきたもの、やってきたことをふりかえり(第1部)、その後、最終回での発表に向けて、参加者のみなさんそれぞれに「お題」を決めていただき、そのジャンルによってグループに分かれてスタッフを交えてお題の内容を詰め、リサーチのプランをたてていただきました(第2部)。

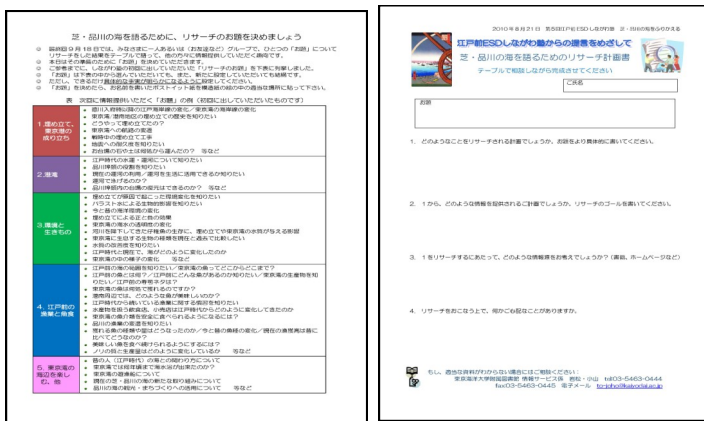


図1 当日の配布資料。リサーチお題の例一覧(左)とリサーチ計画書(右)。



写真1 第5回江戸前ESDしながわ塾の開会の様子(楽水会館大会議室にて)。

芝・品川の海を語ろう 江戸前ESDしながわ塾 第5回 芝・品川の海をふりかえる

日時：2010年8月21日(土) 13:30-16:00

場所：東京海洋大学 楽水会館1階大会議室

プログラム

- 13:30 塾長からご挨拶 河野 博 (東京海洋大学)
- 13:35 江戸前ESDしながわ塾をふりかえる
 - 1. 江戸前の海の埋立てを知る 小堀 信幸 氏 (船の科学館)
 - 2. 芝・品川を海から観る - 東京みなとクルーズ 今井 健三 氏 ((財)日本水路協会)
 - 3. 芝・品川の海の水質とプランクトンを視る 石丸 隆 教授 (東京海洋大学)
 - 4. 江戸前の漁業を聴く 藤塚 悦司 氏 (大田区立郷土博物館)
- 14:10 芝・品川の海を語るために、リサーチのお題を決めましょう
参加されたみなさん
休憩
- 14:40 リサーチ計画をつくろう
- 15:30 リサーチ計画のわかちあい
- 15:55 閉会の挨拶と次回のお知らせ 石丸 隆 (東京海洋大学)

配布物：(2と3を図1に示します)

- 1. 江戸前ESDミニ瓦版第1号～第4号
- 2. 芝・品川の海を語るために、リサーチのお題を決めましょう(リサーチお題の一覧)
- 3. 芝・品川の海を語るためのリサーチ計画書
- 4. リサーチ結果の見本

表1 第5回江戸前ESDしながわ塾のプログラム

第1部 江戸前ESDしながわ塾をふりかえる

第1部では、「江戸前ESDしながわ塾をふりかえる」と称して、小堀さん、今井さん、石丸教授、藤塚さんの各氏に、ご担当いただいた、あるいは内容にお詳しい回について、しながわ塾で見てきたもの、やってきたことを、それぞれ5分間という短い時間でありますが、ふりかえっていただきました(写真2)。

第2部 芝・品川の海を語るために

リサーチのお題を決める

第2部では、第1部のふりかえりをふまえて、参加者のみなさんそれぞれのリサーチのお題を決めていただきます。

まず、河野塾長が江戸前ESDしながわ塾第1回のワークショップで出された「リサーチのお題」(一覧を配布;図1)を示し、趣旨を説明(写真3)しました。お題は、「1.埋立て、東京港の成り立ち」、「2.港湾」、「3.環境と生きもの」、「4.江戸前の漁業と魚食」、「5.東京湾の海辺を楽しむ、他」の5つに分かれています。

参加者の方々は、それぞれのテーブルで、スタッフを交えてお話ししながら、ご自分のお題を決めていきました(写真4)。私が参加したテーブルでは、ご自身がお住まいの地域の防災を含めてリサーチできる題を決めたい、といった声が聞かれるなど、身近な問題を「お題」として設定される方が多くいらっしゃいました。

お題が決まった方から順に、お題とお名前をポストイットに書いて、絵が描かれている模造紙に貼って「入札」していただきました。(写真5)。

テーブルでリサーチ計画をつくる

いよいよリサーチ計画を練るために、同じジャンルのお題を選んだ方たちで、テーブルに座っていただきました。

まず、お一人で、リサーチ計画書(図1)に記入をしていただき、その後にテーブルでお題を発表して、他の方々からご助言やご意見をいただきました。それらを共有しながら、学生スタッフがそれらをポストイットに書いて模造紙に貼っていきました(写真6~9)。

参加者のみなさんは、ご自身が設定したお題についての背景や思いを熱心に語られ、また、他の方のお題に関しても、とても真剣に耳を傾けておられ、参加者のみなさんの問題意識の高さや探究心の強さを感じました(写真10)。

最後に、会場全体で、テーブルごとにお題やリサーチの流れを発表し、附属図書館から利用のご案内をして(写真11)、閉会を迎えました。

帰り際に、参加者のお一人が「いい宿題が出来た」、と意気揚々と語っておられたのがとても印象深く、最終回のしながわ塾がとても待ち遠しいものとなりました。

(くすのせ・しん)



写真2 始めに(左奥から順に)小堀さん、今井さん、石丸教授、藤塚さんに、第1回から第4回までに見てきたもの、やってきたことをふりかえっていただきました。



写真3 第1回~第4回をふりかえった後、第1回で挙げていただいたリサーチのお題を見直して、考えていただきたいと説明する河野塾長。



写真4 リサーチのお題を考えています。

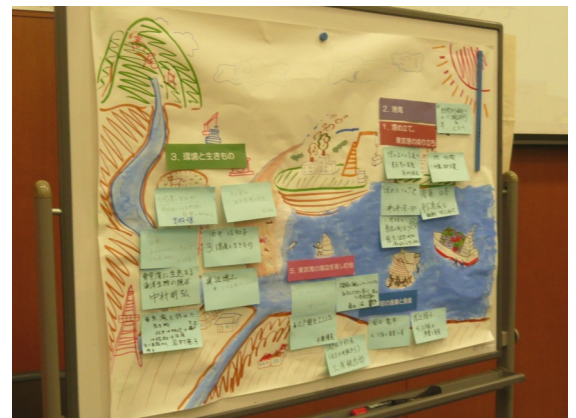


写真5 リサーチのお題を絵に貼って「入札」していただきました。絵は有馬優香さんと申中華さん(院・海洋管理政策学専攻)が作成。

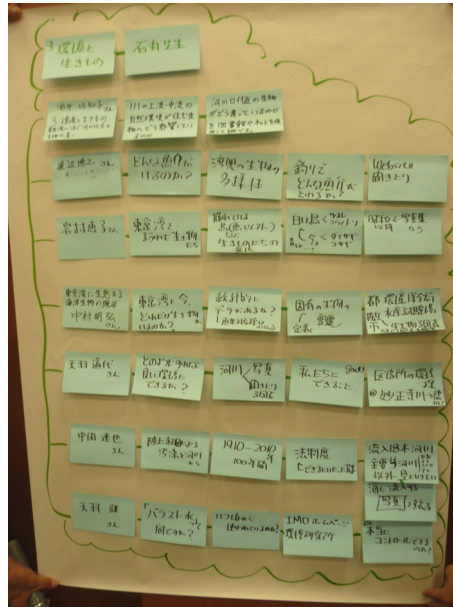
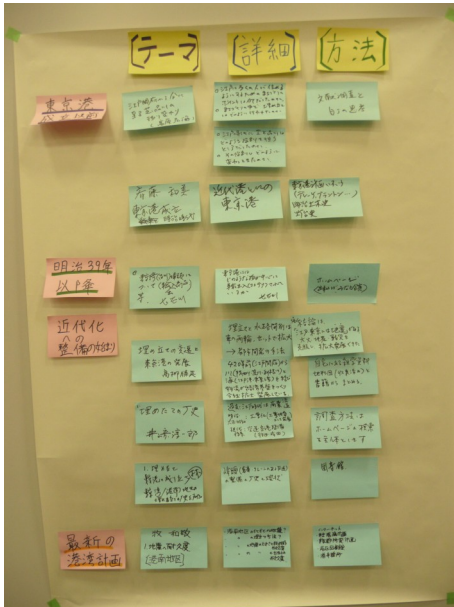


写真6、7、8（左から）「1. 埋立て、東京港の成り立ち」と「2. 港湾」、「3. 環境と生きもの」、「4. 江戸前の漁業と魚食」の研究計画を話し合った結果。これを示しながら各グループの代表が全員の前で発表しました。

小堀 信幸 さん（船の科学館）の みなと・埋立て Q & A



しながわ塾の最後に書いていただいている「ふりかえりシート」。ここに書かれた「新たな疑問」と「残ったままの疑問」の中から、小堀さんに選んでお答えいただきました。

Q：江戸時代の埋め立て方は？

A：江戸時代においても木板や石垣、筵などで土留めをするなど色々な方法がとられたと思いますが、江戸東京博物館に汐留遺跡発掘で出土した遺構が展示してあります。これによると、沖の方向に杭を斜めに打ち込み、埋め立ての土砂流失を防ぐために、竹を杭に絡ませてしがらみを作って行っていました。

Q：なんと江戸湊、東京港の水深が浅かった？！

A：初回のみなと館の大野さんが示された東京港水深図（1906年）でも分かるように、お台場から現在の臨海副都心にかけて水深が1.8mより浅い海域が広がっていて、干潮時には一面干潟が露出する海域でした。

Q：東京港の将来像は？

A：昭和61年10月東京港の将来像検討委員会「東京港の将来像について－21世紀に向けての東京港臨海部の再生－」で、21世紀にふさわしい東京港と東京臨海部の将来像を以下の基本理念のもとに展望しています。

- 世界都市東京の海の玄関にふさわしい港づくり
- 未来を先取りする港湾機能の整備・充実
- 都民に開かれた東京臨海部の創造
- 国際化・情報化時代にふさわしい都市づくり
- 美しいウォーターフロントの創出

Q：ペリー来航に応じた居留地跡はどうなっているのでしょうか？

A：現在の中央区明石町周辺で聖路加国際病院を中心とした地域です。

Q：大都市を支えるため港湾の整備は必要としても、自然との共生は？

A：当然必要なことで、例えばカニ護岸を港湾整備に入れるなど様々な取り組みがなされているようです。

Q：今後の埋め立ても今回の映像（第1回で上映）と同じなのでしょうか？

A：映像では、東京港整備に係る浚渫土砂による海面埋め立てであったと記憶していますが、通常ゴミと言われている一般廃棄物の処分については、昭和20年代までは内陸部での処分され、昭和32年頃を境に内陸部での受け入れが難しくなり、昭和51年からは全量を海面埋め立てによって処分するようになりました。今後とも廃棄物、建設残土、さらに浚渫土砂の埋め立て処分場の確保が検討されています。

Q：現在の水深はどうなっているのか？大型の船舶の航行が可能なのか。

A：内貿雑貨埠頭(日の出、芝浦、品川)は、-5.5～-10mで対象船舶2,000～15,000載貨重量トン(D/W)。外貿コンテナ埠頭(品川、大井、青海)は、-10～-15mで対象船舶15,000～50,000D/W。客船埠頭(晴海)-10mで対象船舶20,000D/Wです。

Q：人口も減少していく今後は、もう埋立は基本的に必要ないと考えてよいのでしょうか。

A：廃棄物の減量化が進み限りなくゼロに近づき、建設残土も内陸部で処理され浚渫土砂の処分も埋め立てを伴わずに処分されるようになれば、基本的には埋め立てが必要ない、と言えるかもしれません。

ありがとうございました。

第5回しながわ塾のふりかえりシートから
いただいたご意見やご感想を
ご紹介します

Q 本日の「芝・品川の海を語るためにリサーチのお題を決めましょう」について教えてください。

- ◎ 先生方が誘って下さるので、本当に有難かったです。
- ◎ ともかくがんばって作成してみたい。
- ◎ 各テーブルのテーマが見事に違っていたのが面白い、「芝・品川」にテーマを絞っていくことが大切と後から(!)思った。
- ◎ 自分が知らないことが多すぎて、上手くりサーチ計画を立てられなかった。でも、同じ班の方、先生に助けを頂ながら立てられた(と思います)。
- ◎ 夢をまとめたが、果たしてどうなるか?
- ◎ 多方面での内容があり、大変興味深かったです。
- ◎ 興味深いテーマが多く、ひとつに決めるのがむずかしかった。
- ◎ これまでの参加により諸先生方からの興味深い話題により、今回リサーチのお題を決めることが出来ました。
- ◎ サポーターさんが居られるので、気楽に参加できます。
- ◎ 改めて地区を考えてみます。
- ◎ 初めての経験。
- ◎ 1つの方向にもっていくのは大変です。
- ◎ 1ヶ月大変だ!
- ◎ 自分なりに興味を持てるテーマを見つけることができたので、楽しんでリサーチしたい。

Q 本日のご感想、次回への抱負など、なんでもご自由にお書きください。

- ◎ 現場を訪れての写真撮影まで、頑張ります。多くのスタッフの方々のお陰で、やる気がモリモリ出て参ります。ありがとうございました。
- ◎ とても良い時間でした。
- ◎ 自分なりにまとめられるようにがんばる!!
- ◎ 東京湾についての東京海洋大学の役割の重要性はとても大きい。過去、現在、未来について、情報の共有、語り合いの場づくりに今後とも機会を積極的につくり、日本の海のあり方を、広く、日本と世界に発信してほしい。
- ◎ 楽しみながら「リサーチ計画」を調査・作成します。
- ◎ 頭を使ってなんとかやります。最終回のあとで、皆で飲み会をしたいですね。

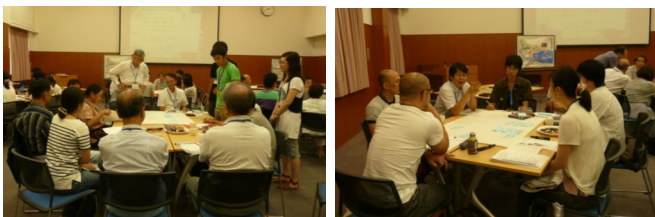


写真10 リサーチ計画について熱く語る参加者の方々。

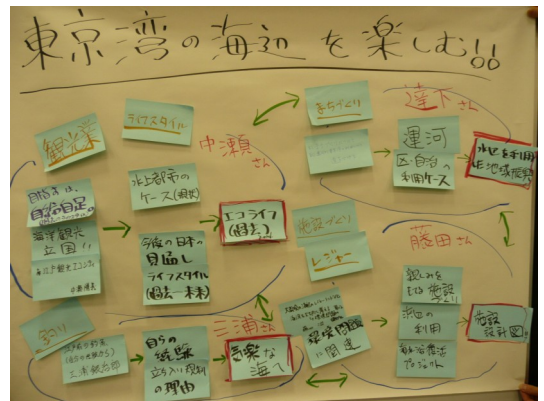


写真9 「東京湾を楽しむ」グループの研究計画。

Q 本日の「リサーチ計画をつくろう」について教えてください。

- ◎ 複数の先生や同席の方々がコメントを下さって安心できました。
- ◎ 今後の東京湾関連の勉強の方向性を決めたい。
- ◎ マニアックな人が多く、私の様な年寄りについてはいかれませんでした。でも知らなかった事が解って良かった。
- ◎ 他の方の意見を聞くのは非常に勉強になりました。
- ◎ リサーチの時間が取れるか心配です。
- ◎ アドバイスがあり、ありがたかった。
- ◎ 予備知識の無い中で、プランを建てるのは、困難だった。
- ◎ 夏休みの宿題ができました。今から楽しみです。
- ◎ 最後の河野先生のことば「レポートが書けなくても、必ず出席してください」で気が楽になります・なりました。
- ◎ 脳を刺激されます。



写真11 リサーチのために附属図書館利用のご案内をする岩松浩子情報サービス係長。

しながわ塾ご参加のみなさまへ

しながわ塾第5回では、最後に発表いただく「リサーチ」の「お題」を決めていただきました。来月はいよいよ最終回、これからの芝・品川の海がどうあってほしいのかを語っていただきたいと考えております。どうぞよろしくお願ひいたします。残暑厳しき候、ご体調を崩されぬようお気をつけてお過ごしください。

江戸前ESDしながわ塾事務局